

鶏

東京農業大学
「食と農」の博物館所蔵
鶏の剥製コレクション



「はじめに」

鶏は古くから農耕文化の中で私たちの暮らしと深くかかわってきました。そこには私たちの生活とともに鶏の文化があり、鶏の科学がありました。食用として卵や肉を得るためだけではなく、姿や性質を愛でる愛玩用として、実に多くの品種が世界で作出されてきたのです。

そんな鶏が私たちの身近から姿を消したのはいつ頃のことでしょう。日本が高度経済成長にわいていたのは昭和30年代から40年代にかけてのことです。この時期都市郊外の田園地帯も健在で鶏の世話をする子供の姿が見かけられたものです。都市部でもこの年代に小学生だった方は、学校の花壇の世話のため、リヤカーをひいて農家に鶏糞を貰いに行った経験があるのではないのでしょうか。卵や肉の流通経路の変化や飼養法が変遷するのに伴い、鶏の世界が私たちの生活と乖離してしまったのです。今では私たちが鶏と出会えるのは、スーパーマーケットの生鮮食品のコーナーやフライドチキンなど調理された食品として、また鳥インフルエンザのニュースぐらいでしょうか。

しかし鶏を知ることは鶏の科学や文化を学ぶことになると同時に、鶏に限らない私たちの暮らしの根幹である「農業」に対する先人たちの知識や思いを共有することにもなります。

このたび、当博物館所蔵の鶏の剥製コレクションの目録を新たに編集することとなりました。これらの剥製の多くは、本学名誉教授の一戸健司博士、渡邊誠喜博士、平井八十一博士の三名の先生方のご尽力によって収集されたものです。さらに社団法人全日本家禽協会の諸会員の方々にも多大なご協力をいただきました。ここにお礼を申し上げます。

編集にあたっては前回の目録編集の際の、財団法人進化生物学研究所の白石幸司主任研究員と渡邊忠男主任研究員(元本学畜産学科教授)にご尽力をいただいた大きな成果をそのまま踏襲させていただくものです。改めてお二人にお礼を申し上げます。

読者の皆様には、さまざまな鶏の品種の性質や由来をご理解いただくとともに、食糧生産としての農業だけではなく、環境との共生といった大きな意味での「農業の世界」へ興味を持っていただければ幸いです。

2011(平成23)年4月1日
東京農業大学「食と農」の博物館

日本鶏

日本鶏以外の鶏

アンダルーシャン

Andalusian

卵



スペインのアンダルシア地方の原産と言われるが、改良地はイギリスである。別名青灰色ミノルカとも言われ、ミノルカとは近縁の品種である。卵が大きく年間産卵数は約200個。日本ではほとんど飼育されていない。地中海種としては最も古い品種の一つである。
●体重：雄 3,500g / 雌 2,400g

インギー

Ingie

愛玩Ⅱ



無尾鶏として鶉尾と共に注目される品種である。種子島の産で、その由来は明治の初期、難破した英国船に食料として積み込んであった鶏による。名称のインギーはイギリスの意である。本種は支那種の感があり、英船が上海あたりで仕入れてきたとの考えもある。この無尾鶏は日本産無尾の“鶉尾”と共に稀種として扱われ、研究上からも興味を持たれる種である。
●体重：雄 3,500g / 雌 2,800g

烏骨鶏(うこっけい)

Ukokkei

愛玩Ⅰ

天然記念物 昭17.7.21



江戸時代初期に中国から渡来したと考えられる。体格はやや小さく、羽色は白色のものが多い。絹糸状羽、紫黒色の皮膚、五趾、脚羽、紫赤色の肉冠、など特徴的な形質を備えている。内種としてブルー、ブラック、ゴールド、ホワイトがある。
●体重：雄 1,300g / 雌 1,000g

烏骨鶏(うこっけい)

Ukokkei

鶏の名前 英名 天然記念物指定日

天然記念物 昭17.7.21

愛玩Ⅰ

主な用途

写真

解説



江戸時代初期に中国から渡来したと考えられる。体格はやや小さく、羽色は白色のものが多い。絹糸状羽、紫黒色の皮膚、五趾、脚羽、紫赤色の肉冠、など特徴的な形質を備えている。内種としてブルー、ブラック、ゴールド、ホワイトがある。
●体重：雄 1,300g / 雌 1,000g

※鶉種はアイウエオ順とした

鶉尾(うすらお)

Uzurao

天然記念物 昭12.6.15

愛玩Ⅰ



高知県の原産。その姿形が鶉に似ていて小型である。土佐小地鶏から突然変異によって生じた無尾鶏である。尾椎骨は退化している。耳朶(じだ)は楕円形で白または帯黄色を呈し、黄脚である。内種として白色種、碁石種、三色碁石種、黒色種、金笹種、赤笹種、その他がある。
●体重：雄 675g / 雌 600g

尾長鶉(おながどり)

Onagadori Japanese Long-tailed Fowl

天然記念物 特別天然記念物 大正12.3.7 昭27.3.29

愛玩Ⅰ



高知原産の尾長12mにも達する日本鶏である。羽色は白藤種を主とするが白色種、赤色種、狸々種がある。単冠、白耳朶(しろじだ)で時には黄色を帯び、脚は鉛色あるいは黄色、眼は栗色をしている。天然記念物の鶏17種のうち最も早く大正12年3月7日に指定され、その後昭和27年3月29日に特別天然記念物となった。鳥類の中で世界一長い尾羽となるのが特徴である。ふつう鶏は年1回秋に換羽するが、雄の尾羽の一部が生伸びつづけるという突然変異種で、世界の鳥類学者にとって驚異の鶏である。
●体重：雄 1,800g / 雌 1,350g

オーストラロップ

Australorp

卵



原産地はオーストラリア。ブラック・オーピントン種から改良してつくられた。羽色は黒。卵はベージュから褐色。かつては卵用鶏の世界チャンピオンだった。1930~40年代に雑種作出に多く供された。万能タイプのニワトリで産肉量、産卵数にすぐれ、寿命も長いなど利用性の高いニワトリである。
●体重：雄 4,300g / 雌 3,300g

尾曳(おひき)

天然記念物
昭12.6.15

Ohiki

愛玩Ⅰ



高知県原産で、以前は簀曳矮鶏と言われていたが、矮鶏とは別種である。また簀曳種(このパンフレットのp8を参照)の小型種ではないので尾曳と改名された。尾羽と翼羽が著しく伸びる特異な鶏種です。小国種系の小型種で、羽色は赤笹種が主体で白笹種と白色種もある。耳朶(じだ)は白色又は帯黄白色で円形に近く大きい。脚は楊柳色で短い。

●体重: 雄 940g / 雌 750g

河内奴(かわちやっこ)

天然記念物
昭18.8.24

Kawachiyakko

愛玩Ⅰ



小地鶏と小軍鶏の交雑によって作られたと言われていた。羽装は赤色の強い五色で、雌は白笹に近い。冠は三枚冠だが、中央が突出し両側は低いのが本種の最も顕著な形態的特徴と言える。名称の由来は三重県会郡南伊勢町の河内(こうち)で作出されたため、その地名がつけられたもの。しかしその名前から大阪府河内(かわち)地方で作出されたと言われられることがある。

●体重: 雄 930g / 雌 750g

熊本(くまもと)

Kumamoto

卵・肉・愛玩Ⅱ



熊本種は明治時代、熊本県で従来種にバフコーチン種やエーコク種を交配して作られた鶏で、バフ色の大型で肉質の優れた卵肉兼用種である。戦前は広く県内全域で飼われていたが、戦後は暫時羽数が減少し、絶滅寸前のところを昭和51年に熊本県養鶏試験場が保存改良と増殖に取り組んだ。改良と研究を続けてきた結果、熊本種より更に大型で強健な良質鶏肉生産鶏「熊本コーチン」は熊本種の良質肉を活かして改良された種類も作られている。

●体重: 雄 3,750g / 雌 3,000g

久連子鶏(くれこどり)

熊本県指定天然記念物
昭40

Kurekodori

愛玩Ⅱ



本種は平家の落人伝説で知られる五家荘の久連子の産で、薩摩鶏の変種と考えられる。今日では銀笹種のみが保存されている。この鶏の起源は明らかでないが古代踊(平家踊とも呼ぶ)。熊本県指定重要無形文化財)との関係から300余年前の江戸時代まで遡ると考えられる。古代踊の時、頭にかぶる花笠に本種の尾羽を利用してきたもので、鶏と人が共存共栄し、今日に至る貴重な存在である。

●体重: 雄 2,200g / 雌 1,800g

黒柏(くろかしわ)

天然記念物
昭26.6.9

Kurokashiwa

愛玩Ⅰ



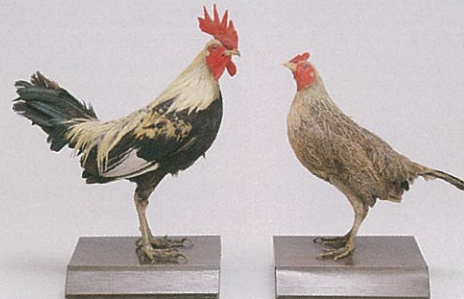
中国地方で古くから飼われていた鶏である。全身ほとんど真黒色で、長鳴性という特徴を持つ。単冠、赤耳朶(あかじだ)で、冠、顔面、肉垂、耳朶は黒色を帯びるものがあり、脚は鉛色、黄色に黒を帯びるものもある。天然記念物鶏17種のうちで最も新しく昭和26年6月9日に指定された。黒柏の近縁種として白柏、赤柏がある。

●体重: 雄 2,800g / 雌 1,800g

ゲームバンタム

Game Bantam

愛玩Ⅱ



原産地はイギリスで8内種がある。単冠で、闘技用鶏種としてインドに始まりペルシャ、ギリシャ、トルコ、イタリア、イギリスへと伝えられた。闘技のとき流血防止のため冠は早くに剪除する。現在では大型の種類より小型のゲームバンタムが鑑賞鶏として飼育されている。

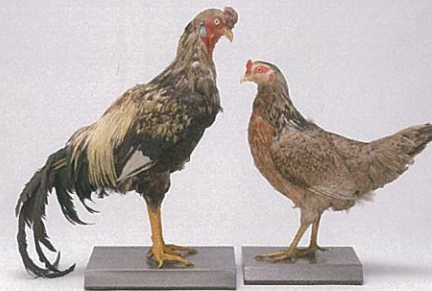
●体重: 雄 622g / 雌 566g

声良(こえよし)(三鳴鶏)

天然記念物
昭12.12.21

Koeyoshi

愛玩Ⅰ



秋田が原産の長鳴鶏で、その謡いは「出し」「付け」「中音(張り)」「落し」「引き」から構成される。東天紅とは対照的な低音で、太く長い声が地を這うように響き渡る。体型はかなり軍鶏に近い。

●体重: 雄 4,500g / 雌 3,750g

ライトサセックス

Light Sussex

卵・肉



飼養地は西ヨーロッパで、原産地はイギリスである。西ヨーロッパの鶏肉生産場の多くは育種の本種鶏として利用されている。産卵性が良いとも言われ、卵用鶏の交雑に用いられることもある。サセックス種はイギリスの古い家禽品種の一つでライトの他に、ブラウン、パフ、レッド、シルバー、ホワイト、スペクルドなどの内種がある。実用鶏として重要な位置を占めてきた。

薩摩鶏(さつまどり)

天然記念物
昭 18.8.24

Satsumadori

肉・愛玩 I



鹿児島県、宮崎県原産で主に闘鶏に用いられており、脚に鋭利な刃をつけて戦わせていたので「剣付け鶏」と呼ばれていたが、現在では観賞用と肉用交雑鶏の種鶏として用いられるのが中心である。冠は三枚冠、胡桃冠で耳朶は赤色、脚は黄色で羽色は白笹種、赤笹種が主体で、黄笹、白色および黒色種も見られる。
●体重：雄 3,400g / 雌 2,600g



地鶏(狸々地鶏しょうじょうじどり)

天然記念物
昭 16.1.27

Miejidori

愛玩 I



ときに三重地鶏・伊勢地鶏とも呼ばれることがある。単冠、赤耳朶である。脚は黄色で中足部の側面は縦に赤みを帯びる。体型は土佐九斤の小型、あるいは軍鶏のように立ったものもあると言われたが、現在はレグホーンに似た地鶏型が一般的である。
●体重：雄 1,800g / 雌 1,350g

地鶏(高隆寺地鶏こうりゅうじどり)

Kouryuuzijidori

愛玩 II



高隆寺地鶏は、愛知県原産で、黄笹から五色の羽色の小地鶏である。雑穀鶏で小米、糠、ふすま、生ゴミ等のかきえで飼育する。放し飼いで見て色彩を楽しむ地方地鶏の一種であるが、現在ではその姿を消した。
●体重：雄 670g / 雌 580g

地鶏(岐阜地鶏ぎふじどり)

天然記念物
昭 16.1.27

Gifujidori

愛玩 I



地鶏の代表的品種で、郡上地鶏とも呼ばれる。戦前は実用鶏として飼われていた。単冠、赤耳朶で、脚は現在黄色に統一されている。羽色は赤笹と黄笹があるが、五色や白色型も出現する。本来は古い時代に報農用、闘鶏用に飼われたが、その後採卵や採肉用として利用されたものの今や愛玩用観賞用となっている。
●体重：雄 1,800g / 雌 1,350g

地鶏(土佐小地鶏とさこじどり)

天然記念物
昭 16.1.27

Tosakojidori

愛玩 I



その名の通り小型の高知原産の赤笹の地鶏である。近年、体を小さくし翼尖をさげた矮鶏型に近いものも見られるが本来の型ではない。本種は唯一の小型地鶏であるため、小型の日本鶏の作出に利用された。鶏の先祖とされる赤色野鶏ににている。本種は岐阜地鶏、三重地鶏、芝鶏(しばっとり)などと共に小地鶏として天然記念物鶏に指定された。
●体重：雄 675g / 雌 600g

軍鶏(大軍鶏おおしゃも)

天然記念物
昭 16.8.1

Ohshamo

肉・愛玩 I



本種の元は徳川時代初期、シャム(タイ)国から渡来したマレー系統の鶏種で、その名称のシャモはシャム国に由来する。その後日本で改良され典型的な闘鶏となった。勇猛無比で、直立的姿勢など特異的である。肉は美味で他の品種と交雑させシャモオトシ作出用としても利用される。内種に赤笹種、黄笹種、油種、碇石種、浅黄種、白色種、狸々(しょうじょう)種がある。
●体重：雄 5,620g / 雌 4,875g



軍鶏(小軍鶏こしゃも)

天然記念物
昭昭 16.8.1

Koshamo

愛玩 I



白



碁石



赤笹



白笹

軍鶏を小型化した鶏種で、闘鶏には用いられない鶏。飼育管理が楽なことから飼育愛好家が多いといわれている。小シャモはチビと称し、その体型と闘争性が好まれ全国的に飼われている。脚の太く短い小型のものと、大シャモを小型にしたスッキリした体型のものがあり、後者が好んで飼育され、もっぱら観賞用とされる。鶏の中でもチャボと共に多くの内種がある。

●体重：雄 1,000g / 雌 800g

軍鶏(南京軍鶏なんきんしゃも)

天然記念物

Nankinshamo

愛玩 I



黒

超小型のシャモで成鶏でも身長 30cm 程度である。尾は長味があり、脚は長い。幾分地鶏的なところも見られる。人に慣れやすく手乗りにもなり、愛玩用や観賞用として飼育されている。闘鶏には用いられない。黒の他に白、銀笹、赤笹などの内種がある。一般的に小軍鶏との区別が難しい。

小国(しょうこく)

天然記念物
昭 16.1.27

Shoukoku

愛玩 I



白



白藤

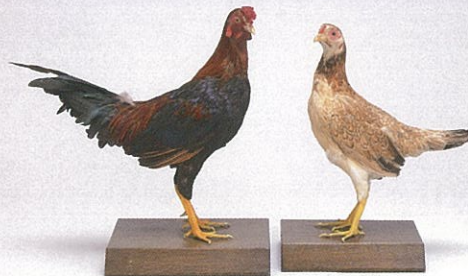
平安時代に既に我が国に存在していたことを証明する記録が残っている。中国から渡来した当初は闘鶏と時報に供されてきたという考証がある。容姿は端麗だが、長鳴性と闘争性を有する。羽色には3種(白藤種・五色種・白色種)あり、尾羽は豊かで長い。時刻を正しく告げることから正告とも、また中国の昌の国から由来し昌国ともいう。日本へは古くに渡来し、日本鶏作出に関与した元祖の鶏とされる。

●体重：雄 2,000g / 雌 1,600g

軍鶏(越後南京軍鶏えちごなんきんしゃも)

Echigonankinshamo

愛玩 I



普通の南京シャモと大差はないが脛がより短いことと少しばかりキジ尾である。内種として赤笹種、黄笹種、黒色種がある。体格は小軍鶏よりやや骨細く、動作が軽快で、しかも精悍である。

●体重：雄 930g / 雌 750g

東天紅(とうてんこう)(三鳴鶏)

天然記念物
昭 11.9.3

Toutenko

愛玩 I



我が国の長鳴鶏3種(東天紅、声良、唐丸)のうちの1種。高知県原産で羽色は主に赤笹型である。尾羽は豊かで、蓑羽とともに長く伸びて地に垂れる。3長鳴鶏の中で最も早く天然記念物に指定され、その鳴声は25秒という記録もある。山間地で作出、育成され固定されてきた。

●体重：雄 2,250g / 雌 1,800g

唐丸(とうまる)(三鳴鶏)

天然記念物
昭 14.9.7

Toumaru

愛玩 I



唐丸(蜀鶏)は新潟原産の長鳴鶏で、誤いは東天紅と声良の中間型と言われるが、もっとも張りが強く、遠くまでよく通る。誤いの長さは東天紅よりやや短く、標準では18秒である。羽色は黒色であるが、白色のものもある。東天紅がテノール、声良をバスとする唐丸はバリトンになる。

●体重：雄 3,750g / 雌 2,800g

矮鶏(ちゃぼ)

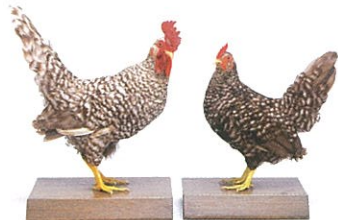
Chabo

天然記念物
昭16.8.1

愛玩Ⅰ



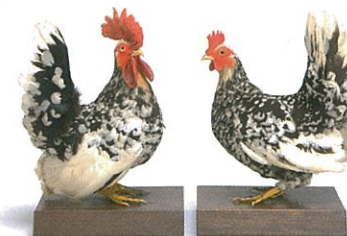
銀笹



銀鈴浪



黒



碇石



翁



逆毛



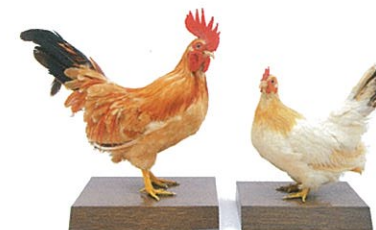
三色碇石



白



淡毛狸々



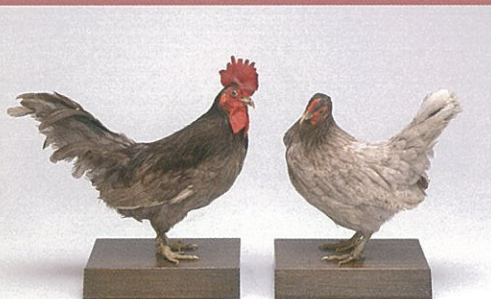
狸々矮鶏

矮鶏(ちゃぼ)

Chabo

天然記念物
昭16.8.1

愛玩Ⅰ



浅黄



糸毛



柱

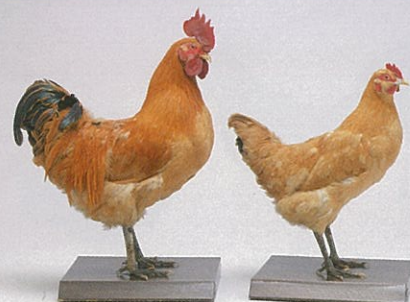
江戸時代初期、ベトナムの占城(チャンパ)より渡来したことから、「チャボ(矮鶏)」と名付けられた。小さい体、短い脚など、どこか品位のある可愛らしさは世界的に人気が高く、各国で「チャボクラブ」などの愛好団体が結成されている。また、日本鶏で最も内種が多く、現在25種に達している。飼い易くおとなしくそして愛らしい姿から学校などでも生き物教育や情操教育などに役立っている鶏で、日本全体での飼育個体数が多い。

●体重：雄730g／雌610g

名古屋(なごや)

Nagoya

卵・肉・愛玩Ⅱ



明治初期に中国原産のパフコーチンに各地の地鶏と外国種を交配して卵肉兼用の実用鶏として作出された。レグホーンやブロイラーの進出によってほとんど省みられなくなったが、近年食生活の向上とともに肉質が優れていることが見直され復活してきた。初めは名古屋コーチンと称されたが、脚毛を除去し改良されて名古屋種となった。

●体重：雄3,600g／雌2,700g

ハムバーグ

Hamburg

卵



起源は不明である。一説によるとイタリアを経て古くからオランダにいたという。体型はレグホーンに近く羽色によって種類が分けられている。美しいので愛玩用であるが、産卵性もある程度あるのでかつては実用鶏としても飼育されていた。五つの内種があり、10年間位産卵する。ふつうの鶏は4~5年で産卵停止をすることから長期産卵性をもつ鶏として注目される。産卵数は200~230位だがレグホーンより卵は小さい。

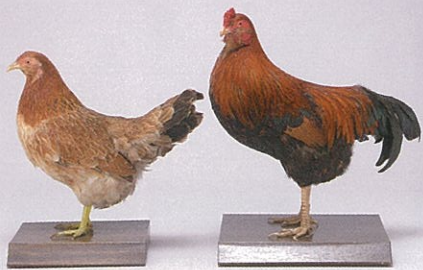
●体重：雄2,500g／雌1,800g

比内鶏(ひないどり)

天然記念物
昭17.7.21

Hinaidori

肉・愛玩Ⅰ



秋田県原産。地鶏と軍鶏の交雑によって作出されたとされている。冠は三枚冠で、耳朵(じだ)と肉髯(にくぜん)は赤色、全体的にすんぐりした印象を受ける。頸部は細く、脚は豊富な羽毛で覆われているため「はかま」をはいているように見える。秋田の郷土料理のキリタンポには欠かせぬものとされ、比内地鶏はこのみとロードアイランドレッドの♀などを交雑させたもので鍋料理に最適とされる。
●体重：雄 3,000g / 雌 2,300g

横班プリマスロック

Plymouth Rock

卵・肉

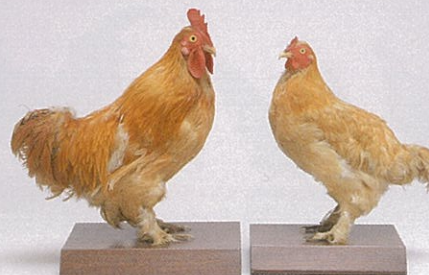


原産・飼養地はアメリカ合衆国プリマス地方で名称は地名に由来する。速い体重増加と強健さを目的として改良された。交雑に用いられ、世界で飼育されている肉用鶏の半分以上に雌の種鶏を供給している。プリマスロック種の内種は横斑、ホワイト、ブラック、パフ、コロンビアン種の5種があるが横斑種が一般的である。
●体重：雄 3,000 ~ 3,500g / 雌 2,500 ~ 3,000g

ペキンバンタム

Beijing Bantam

愛玩Ⅱ



アジア原産の鶏で、コーチン・バンタムとも呼ばれる。コーチンを小型にしたような体型だが、コーチンの矮性ではない。比較的多産で、卵殻は赤く、就巢性があるので母鶏孵化に使われている。日本には観賞用として輸入されている。バンタムの中では最も古い品種で小型である。小さく愛らしく高く飛ばず、狭い小屋でも飼えるなど各国で広く普及している。
●体重：雄 750g / 雌 650g

シルバーレイズドポーリッシュ

Silver Laced Polish

卵・愛玩Ⅱ



ポーランド原産の極めて古い種でポーランドとも称される。頭は大きく頭蓋骨の頂部は球状に突起している。耳朵(じだ)は白く小さい。毛冠は大きく美しいので愛玩用として親しまれている。有髯(ゆうぜん)・無髯(むぜん)のものがあ、毛色は黒色、白色、銀色など様々である。米英では主として愛玩鶏とし飼われたが実用鶏とした国もあった。年間200個位の産卵がみられる。
●体重：雄 2,900g / 雌 2,200g

蓑曳(みのひき)

天然記念物
昭15.8.30

Minohiki

愛玩Ⅰ



その名の通り雄の蓑羽が地面に引きずるほど長く、さらに尾羽も長く1m以上もある。美しい容姿の鶏である。起源は定かではないが江戸時代の三河国大島の領主が大変な愛好家でお国自慢のひとつとして各国大名に推奨したことから各地に広がった、との言い伝えがある。羽色は赤笹を始め5種がある。
●体重：雄 2,500g / 雌 2,000g

ミノルカ

Minorca

卵



スペインのミノルカ島が原産とされ、さまざまな内種があるが黒色内種が広く飼育されている。現在日本では主として東北・北陸地方等で愛玩鶏として小羽数飼育されているが、近親交配の結果体型は小型化してきた。体型は大きく性質は温順で放し飼いに適している。純白の大卵を年150個位産卵する。
●体重：雄 4,000g / 雌 2,900g

宮地鶏(みやじどり)

Miyajidori

愛玩Ⅱ



本種は高知県幡多郡平田村周辺の産で、昭和16年頃一般に知られる様になった短脚鶏でいわゆる地鶏(じどり)ではなく、作出者の宮地氏の名前を冠したものとされている。もしこの種を地鶏とするならば宮地地鶏(みやじどり)とするのが妥当である。短脚種のため農産物を荒さないのが農家の放飼に適し産卵も良好である。羽色は雌雄とも黒緑色で、冠は一枚冠五歯である。性質は温順である。
●体重：雄 1,400g / 雌 1,100g

ロードアイランドレッド

Rhode Island Red

卵・肉



米国ロード・アイランド州の農場で短期間に成立した。最近では改良が進み年間産卵数が250個近くになった。また白色レグホーン雄とロード・アイランド・レッド雌の一代雑種は日本ではロードホーンと呼ばれ年間産卵数は280個に達し実用的採卵鶏としても多く飼育されてきた。
●体重：雄 3,800g / 雌 2,900g

アオエリ野鶏

Green Junglefowl (*Gallus varius*)

剥製は所蔵していません

野鶏属のうちの1種。雄の頸羽が特徴的な蛍光色で青緑色のためこの名がある。生息地はジャワ島から東へ、アロール島までの小スンダ列島である。分布域がセキショク野鶏と同じ地域であっても生態的隔離が成立していて交雑することはない。羽装は風切羽、尾羽、胸羽、腹羽は黒色で全体として黒が基調色であるが、頸羽は羽弁の部分（本羽）が狭い逆三角形で、先端は鈍円状になる。したがって、岬羽にはならず、色調は蛍光を帯びた青緑色である。背羽の羽縁はクリーム色、覆翼羽のそれは赤褐色、冠は肉歯がなく周縁部だけが赤色、中央部は青色である。下顎から喉部へのびる1枚の肉垂は前半が赤、後半が黄色、下縁が青色の3色構成である。皮膚は白色、脚は淡黄色で、距、鉤爪、趾は黒ずんでいる。雌の羽装はハイイロ野鶏のように梨地斑が粗くなり、横斑をつくる傾向がさらに著しい。インドネシアでは本種の雄とニワトリの雌とを交雑し、その雑種の羽装と雄の鳴声を楽しむ一つの文化がある。

- 体重：雄 900g / 雌 700g
- 体長：雄 700mm / 雌 400mm

セイロン野鶏

Ceylon Junglefowl (*Gallus lafayettii*)



セイロン（現在のスリランカ）島だけに生息する野鶏属の1種。森林地帯とくに疎林に好んで棲む。胸羽は頸岬羽、羽色は背羽と共に赤褐色で、第一、二風切羽、尾羽、腹羽などはすべて黒色。このため全体的には、名古屋のコロンビアン型より、むしろ赤笹型に近い感じになる。単冠で肉歯はその後半部で明瞭になり、中心部の大きい黄色斑が、周縁部の赤色と美しいコントラストをみせる。皮ふは赤色。脚は赤味を帯びた淡黄色で、距、鉤爪、趾の鱗は黒ずんでいる。耳朵は赤く、肉垂は下顎の1対のほか、喉部に小さい1枚の喉垂をもつ。実験的に鶏との交雑種を作出した研究報告がみられる。

- 体重：雄 930g / 雌 550g
- 体長：雄 680mm / 雌 350mm

セキショク野鶏

Red Junglefowl (*Gallus gallus*)



野鶏属の1種で分布域の最も広い種のためか5亜種があるとされている。その分布はインド・ヒマラヤ山地・ビルマ・タイ・マレー・インドシナ半島・中国の四川・雲南省広西壮族自治区・海南島・スマトラ・ジャワ・バリ・ロンボク・スラウェシ（セレベス）フィリピンである。家鶏の原種としては、セキショク野鶏だけと考える単源説と野鶏属4種の交雑による多源説とが長く議論されてきた。しかし現在では、分子系統学的解析からセキショク野鶏単源説がほぼ確定している。羽装は赤笹型で、脚は鉛色、皮ふは白色、単冠で、耳朵は赤色と白色があり、亜種により異なる。主に乾期に5～8個の卵を産み、飼育条件下での産卵数は20数個程度となる。

- 体重：雄 900g / 雌 700g
- 体長：雄 680mm / 雌 350mm

セキショク野鶏骨格標本



ハイイロ野鶏

Grey Junglefowl (*Gallus sonneratii*)

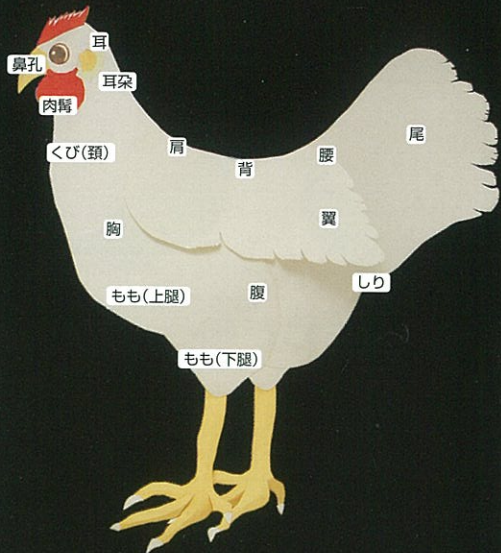


野鶏属の1種で、その名前は羽色の灰色に由来。生息地はインドのゴダバリ河以南とされる。

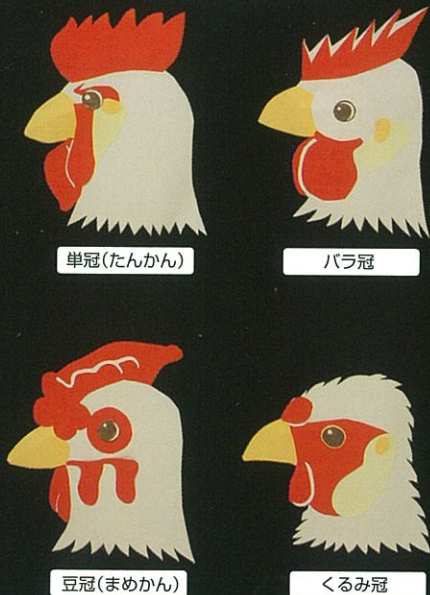
羽色は尾羽、腹羽、風切羽が真黒色、他は羽軸がクリーム色、羽が黒と灰色からなる正羽で覆われ、頸の岬羽は黄褐色と灰色に黒色帯が加わった3段構成の鮮やかな色彩を発現する。雌の羽装は他の野鶏と同じ赤笹型であるが、梨地斑が粗く大きな斑となり、風切羽ではこれがはっきりとした横斑になっている。冠は単冠で赤一色、赤耳朵で、皮ふは白色、脚はセイロン野鶏のように赤色を帯びた淡黄色である。

- 体重：雄 950g / 雌 650g
- 体長：雄 750mm / 雌 380mm

身体各位の名称



とさかの種類



主な鶏種の分類 (品種)

卵用種	兼用種	肉用種	愛玩(観賞)用種 I (日本鶏:天然記念物)	愛玩(観賞)用種 II (日本鶏・洋種)
アンコーナ アンダルーシャン オーストラロープ スパニッシュ ハムバーグ (5) ポーリッシュ (7) ミノルカ (3) レグホーン (12)	ウーダン オーピントン (4) 熊本 サセックス (7) 名古屋 ニューハンプシャーレッド プリマスロック (4) 三河 ロードアイランドレッド (2) ワイアンドット (12)	コーチン (6) コーニッシュ (2) 薩摩鶏 (5) 軍鶏 (大軍鶏9) ドーキング 比内鶏 ブラーマ (3) プリマスロック:白色種 ランシャン	烏骨鶏 鶏尾 尾長鶏〔特別天然記念物〕 尾曳 河内奴 黒柏 声良 薩摩鶏 地頭鶏 地鶏:岐早地鶏 土佐小地鶏 狸々地鶏 岩手地鶏 軍鶏:大軍鶏 (9) 小軍鶏 (13) 大和軍鶏 南京軍鶏 (4) 八木戸 金八 (3) 小国 (3) 矮鶏 (25) 東天紅 唐丸〔蜀鶏〕 (2) 比内鶏 蓑曳鶏 (5)	アロウカナ ウーダン インギー オールドイングリッシュゲーム(30) 熊本 久連子鶏 ゲーム・バンタム コーチン・バンタム 佐渡髭地鶏 芝鶏 シーブライトバンタム 高隆寺地鶏 チャーン 土佐九斤 名古屋 ペキンバンタム ポーリッシュ (7) 三河 宮地鶏 龍神地鶏

注: () 内数字は羽毛等により分けられる内種数